

總 括 編

1. 筑紫野太宰府消防組合の概要

位置・地形及び気象

当消防組合は、福岡県南西部の筑紫野市及び太宰府市の2市により構成され、福岡都市圏の南部に位置しています。地形的には、北東側は三郡山系を経て糟屋郡・飯塚市へ、西側は背振山系を経て佐賀県に接しており、北西部は、大野城市・春日市を経て政令指定都市福岡市に通じ、南部は小郡市を経て商工業都市久留米市に通じています。

東西15.6km、南北14.1km、総面積117.33km²で両市の中心部は市街地が密集し、西に二日市温泉や九州で最古の寺といわれている武蔵寺、北に学問の神様として有名な太宰府天満宮や古代の西海道(九州地方)を管轄した地方最大の役所・大宰府跡があります。また九州国立博物館に加え、「令和」ゆかりの地とされた坂本八幡宮もあることから、近年では国内外問わず観光客が増加傾向となっています。

交通体系は、JR鹿児島本線・筑豊本線、西鉄天神大牟田線・太宰府線、国道3号線・200号線、九州自動車道筑紫野インターチェンジ、さらに福岡都市圏の南側である太宰府インターチェンジと福岡都市高速道路が直結しているため、九州の交通の要衝となっています。また、両市は福岡都市圏としての地理的条件ともあいまって、近年丘陵地の土地開発や流通拠点都市として飛躍的に発展するとともに、恵まれた自然環境を背景とした「ひとが輝き 自然が息づく 住み続けたい幸福実感都市」及び「令和の都さらに羽ばたきたいふ〜課題解決先進都市を目指して〜」の都市づくりを目指しています。

気候は比較的に温暖であり、昨年の平均気象は、気温17.9℃（前年比+0.2℃）、湿度72.1%（前年比-10.1%）、風速2.6m/s（前年比+1.0m/s）、年間総雨量1,973.0mm（前年比-4.5mm）となっています。



面積・人口及び世帯数

(令和6年12月31日現在)

市別 \ 項目	人口 (人)	世帯数 (世帯)	面積 (km ²)
筑紫野市	106,389	48,532	87.73
太宰府市	71,556	33,413	29.60
合 計	177,945	81,945	117.33

2. 筑紫野太宰府消防組合の沿革

組織及び人員

昭和40年 4月 1日	政令指定 筑紫野町に対して、消防組織法第10条に基づく、消防本部設置の政令指定を受ける。
昭和41年10月 1日	消防本部の設置 筑紫野町条例制定により、筑紫野町消防本部及び消防署を設置、消防長以下22人の定員をもって発足する。
昭和42年 4月 1日	3人採用 定数条例を改正し3人増員、総員25人となる。
昭和43年 4月 1日	3人採用 定数条例を改正し3人増員、総員28人となる。
昭和44年 4月 1日	3人採用 定数条例を改正し3人増員、総員31人となる。
昭和44年11月 4日	消防組合設置許可申請 筑紫野町太宰府町消防組合の設立の件を県知事あて申請する。
昭和44年11月18日	消防組合設置許可 消防組合の設置許可を県知事より受ける。
昭和45年 4月 1日	消防組合発足 第1回消防組合議会を開催し、消防組合消防本部及び消防署の組織機構を決定する。(筑紫野町太宰府町消防組合)2課、4係、1署、1分署。定員46人で業務を開始する。(筑紫野町消防本部からの採用31人、新規採用15人)
昭和46年 4月 1日	4人採用 定数条例を改正し4人増員、総員50人となる。
昭和47年 4月 1日	消防組合名称変更 筑紫野町の市制施行により消防組合の名称を筑紫野太宰府消防組合と改める。警防課に救急係を設置。2課、5係、1署、1分署となる。 7人採用 定数条例を改正し7人増員、総員57人となる。
昭和48年 4月 1日	1人採用 定数条例を改正し1人増員、総員58人となる。
昭和48年 7月 1日	1人採用 定数条例を改正し1人増員、総員59人となる。
昭和49年 4月 1日	3人採用 定数条例を改正し3人増員、総員62人となる。 機構改革 予防課設置、3課、5係、1署、1分署となる。
昭和50年 4月 1日	5人採用 定数条例を改正し5人増員、総員67人となる。
昭和51年 4月 1日	2人採用 定数条例を改正し2人増員、総員69人となる。
昭和52年 4月 1日	4人採用 定数条例を改正し4人増員、総員73人となる。
昭和53年 4月 1日	筑紫南消防署を筑紫野消防署に名称変更するとともに太宰府分署を太宰府消防署へ昇格させる。 消防本部機構改革 3課、6係、2署となる。 4人採用 定数条例を改正し4人増員、総員77人となる。
昭和54年10月 1日	4人採用 定数条例を改正し4人増員、総員81人となる。
昭和55年 4月 1日	4人採用 定数条例を改正し4人増員、総員85人となる。
昭和56年 4月 1日	2人採用 定数条例を改正し2人増員、総員87人となる。
昭和57年 4月 1日	機構改革 指令室に2係設置。3課、1室、8係、2署となる。
昭和59年 3月31日	1人退職 定年退職
昭和60年 4月 1日	1人採用 欠員補充

昭和61年 1月15日	1人退職	依願退職
昭和61年 4月 1日	1人採用	欠員補充
昭和62年 3月31日	1人退職	定年退職
昭和63年 3月14日	1人退職	死亡退職
昭和63年 4月 1日	4人採用	2人欠員補充 定数条例を改正し2人増員、総員89人となる。
昭和63年 9月 1日	1人退職	依願退職
昭和63年10月 1日	1人採用	欠員補充
平成元年 3月31日	1人退職	定年退職
平成元年 4月 1日	1人採用	欠員補充
平成 2年 3月31日	1人退職	定年退職
平成 2年 4月 1日	1人採用	欠員補充
平成 2年12月31日	1人退職	依願退職
平成 3年 4月 2日	1人採用	欠員補充
平成 4年 4月 1日	4人採用	定数条例を改正し4人増員、総員93人となる。
平成 5年 4月 1日	4人採用	定数条例を改正し4人増員、総員97人となる。
		消防本部機構改革 指令課設置4課、8係、2署となる。
平成 6年 4月 1日	4人採用	定数条例を改正し4人増員、総員101人となる。
平成 7年 3月31日	1人退職	定年退職
平成 7年 4月 1日	3人採用	1人欠員補充 定数条例を改正し2人増員、総員103人となる。
平成 8年 4月 1日	4人採用	定数条例を改正し4人増員、総員107人となる。
平成 8年12月 1日	1人退職	依願退職
平成 9年 1月 1日	1人採用	欠員補充
平成 9年 3月31日	1人退職	定年退職
平成 9年 4月 1日	11人採用	定数条例を改正し10人増員、欠員補充1人。総員117人となる。
平成10年 3月20日	出張所開設	筑紫野消防署南出張所設置に伴い、運用を開始する。
平成10年 4月 1日	4人採用	定数条例を改正し4人増員、総員121人となる。
平成12年 3月31日	1人退職	定年退職
平成12年12月31日	1人退職	依願退職
平成13年 3月31日	1人退職	依願退職
平成13年 4月 1日	3人採用	欠員補充
平成14年 3月31日	1人退職	定年退職
平成14年 4月 1日	9人採用	定数条例を改正し8人増員、欠員補充1人。総員129人となる。
平成15年 3月31日	6人退職	定年退職
平成15年 4月 1日	10人採用	定数条例を改正し4人増員、欠員補充6人。総員133人となる。
平成16年 3月 1日	出張所開設	太宰府消防署東出張所設置に伴い、運用を開始する。
平成16年 3月31日	5人退職	定年退職4人、勸奨退職1人
平成16年 4月 1日	5人採用	欠員補充

平成17年 3月31日	1人退職	勸奨退職
平成17年 4月 1日	3人採用	定数条例を改正し2人増員、欠員補充1人。総員135人となる。
平成18年 3月31日	1人退職	依願退職
平成18年 4月 1日	1人採用	欠員補充
平成18年 7月31日	1人退職	依願退職
平成18年10月 1日	1人採用	欠員補充
平成19年 3月31日	5人退職	定年退職3人、勸奨退職2人
平成19年 4月 1日	5人採用	欠員補充 定数条例を改正し3人増員、定数138人となる。 (平成23年3月31日までの間は、6人を加えた数)
平成19年 8月 1日	1人採用	欠員補充 総員136人となる。
平成20年 3月31日	5人退職	定年退職4人、依願退職1人
平成20年 4月 1日	5人採用	欠員補充
平成20年 5月31日	1人退職	依願退職
平成20年 6月 1日	1人採用	欠員補充
平成21年 3月31日	6人退職	定年退職3人、勸奨退職3人
平成21年 4月 1日	9人採用	欠員補充 総員139人となる。
平成21年10月 1日	1人採用	欠員補充 総員140人となる。
平成22年 3月31日	6人退職	定年退職4人、勸奨退職2人
平成22年 4月 1日	9人採用	欠員補充 総員143人となる。
平成22年 6月16日	1人退職	依願退職
平成22年 7月 1日	1人採用	欠員補充
平成22年 7月16日	1人退職	依願退職
平成22年 7月31日	1人退職	依願退職
平成23年 3月31日	4人退職	定年退職3人、勸奨退職1人
平成23年 4月 1日	12人採用	定数条例を改正し8人増員4人欠員補充 、定数150人、総員149人となる。
平成23年 9月17日	1人退職	死亡退職 総員148人となる。
平成24年 3月31日	11人退職	定年退職11人
平成24年 4月 1日	4人採用	欠員補充 総員141人となる。
平成25年 3月31日	3人退職	定年退職3人
平成25年 4月 1日	5人採用	欠員補充 総員143人となる。
平成26年 3月31日	3人退職	定年退職3人
平成26年 4月 1日	4人採用	欠員補充 総員144人となる。
平成27年 3月31日	2人退職	定年退職1人、依願退職1人
平成27年 4月 1日	5人採用	欠員補充 総員147人となる。
平成27年 6月 1日	1人採用	欠員補充 総員148人となる。
平成28年 3月31日	6人退職	定年退職5人、勸奨退職1人

平成28年 4月 1日	2人採用	欠員補充 総員144人となる。
平成29年 3月31日	1人退職	定年退職1人
平成29年 4月 1日	6人採用	欠員補充 総員149人となる。
平成30年 3月31日	5人退職	定年退職4人、依願退職1人
平成30年 4月 1日	6人採用	定数条例を改正し2人増員4人欠員補充、定数154人、総員150人となる。
平成30年 6月 8日	機構改革	予防課に係新設 4課、10係、2署となる。
平成30年 6月 8日	名称変更	警防課管理係を警防課救急係と改める。
平成30年 5月 1日	1人採用	欠員補充 総員151人となる。
平成30年 8月25日	1人退職	死亡退職
平成30年10月 1日	1人採用	欠員補充 総員151人となる。
平成31年 3月31日	5人退職	定年退職4人、勸奨退職1人
平成31年 4月 1日	5人採用	欠員補充 総員151人となる。
令和 2年 3月31日	3人退職	定年退職2人、勸奨退職1人
令和 2年 4月 1日	5人採用	欠員補充 総員153人となる。
令和 3年 2月28日	1人退職	依願退職 総員152人となる。
令和 3年 3月31日	1人退職	定年退職1人
令和 3年 4月 1日	2人採用	欠員補充 総員153人となる。
令和 3年 5月31日	1人退職	依願退職 総員152人となる。
令和 3年10月 1日	1人採用	欠員補充 総員153人となる。
令和 4年 3月31日	2人退職	定年退職1人、依願退職1人 総員151人となる。
令和 5年 4月 1日	1人採用	欠員補充 総員152人となる。
令和 5年 7月14日	1人退職	死亡退職
令和 5年 9月30日	1人退職	依願退職 総員150人となる。
令和 5年10月 1日	1人採用	欠員補充 総員151人となる。
令和 5年12月 1日	1人採用	欠員補充 総員152人となる。
令和 5年12月31日	1人退職	依願退職 総員151人となる。
令和 6年 3月31日	2人退職	依願退職2人 総員149人となる。
令和 6年 4月 1日	4人採用	欠員補充 総員153人となる。
令和 6年 9月30日	1人退職	依願退職 総員152人となる。
令和 6年11月 1日	1人採用	欠員補充 総員153人となる。
令和 6年12月31日	1人退職	依願退職 総員152人となる。

消防行政

昭和41年10月 1日	消防業務開始	筑紫野町消防本部、消防署設置に伴い、消防業務開始
昭和42年12月26日	自主救急業務開始	
昭和45年 4月 1日	消防組合発足	筑紫野町太宰府町消防組合発足に伴い、筑紫南消防署及び太

	宰府分署業務開始
昭和47年 4月 1日	救助業務開始 本署に救助分隊員6人を配置し、救助業務開始
昭和48年10月 1日	はしご隊発足 兼任はしご隊を筑紫南消防署に配置
昭和49年 4月 1日	専任救急隊配置 筑紫南消防署に専任救急隊6人を配置
昭和49年10月 1日	専任救助隊配置 筑紫南消防署に専任救助隊6人を配置
昭和50年 3月31日	高速救急隊配置 九州自動車道開通に伴い、高速救急隊を太宰府分署に兼任配置、業務開始
平成10年 3月20日	筑紫野消防署南出張所業務開始
平成10年 3月31日	九州自動車道筑紫野インターチェンジ供用開始
平成11年 3月 1日	福岡都市高速道路水城出入口供用開始
平成16年 3月 1日	太宰府消防署東出張所業務開始

庁 舎

昭和41年10月 1日	筑紫野町役場北別館を仮庁舎として業務開始
昭和42年 5月31日	庁舎落成 筑紫野町大字立明寺705番地の2に消防本部及び消防署落成 敷地面積 1,312平方メートル 建築面積 270平方メートル 延面積 540平方メートル
昭和44年 6月23日	敷地購入 庁舎敷地の拡張のため隣地990平方メートル購入
昭和45年 4月 1日	太宰府分署開設 太宰府町役場西別館を仮庁舎として業務開始
昭和45年 4月10日	消防本部に書類倉庫、水防倉庫、油脂庫を増設
昭和45年10月27日	太宰府分署落成 太宰府町大字通古賀114番地の1に庁舎落成 敷地面積 980.0平方メートル 建築面積 232.5平方メートル 延面積 397.9平方メートル
昭和46年 6月 7日	消防長公舎用地購入 消防長公舎用地として筑紫野町大字石崎128番地に264平方メートル購入
昭和46年 6月15日	消防本部敷地拡張 県より本部に接していた里道の払下げを受け敷地に加え法面を石垣にする。
昭和46年 8月 5日	第二車庫落成 消防本部にスノーケル車専用としての車庫落成 建築面積 115.5平方メートル
昭和47年 4月10日	消防本部(署)訓練場用地として庁舎裏に990平方メートル購入 実技訓練場とする。
昭和50年 8月 9日	消防本部(署)庁舎増改築工事完成 消防本部 筑紫南消防署庁舎増改築完成 延面積 846平方メートル
昭和52年 6月10日	救助訓練塔落成 救助訓練用主塔、副塔、移動塔各1基設置
昭和55年 8月10日	太宰府消防署増改築工事完成 延面積 458.9平方メートル

昭和57年 3月27日	消防本部第二庁舎改築工事完成(1階 車庫、整備工場、2階 通信指令室、災害対策室、仮眠室、3階 会議室)延面積 415.13平方メートル
昭和58年12月24日	太宰府消防署庁舎増築及び訓練塔新築工事完成
昭和59年 3月24日	筑紫野消防署舗装工事完成
昭和62年10月22日	消防本部(署)庁舎補修工事
昭和62年11月28日	救助訓練用煙道完成
昭和63年 3月11日	消防長公舎敷地売却
平成 8年 3月 6日	消防本部第三庁舎建設用地として筑紫野市土地開発公社から隣地622.74平方メートル購入
平成 8年 3月19日	消防本部第三庁舎新築工事(1階 食堂、トレーニングルーム、2階 会議室)完成 延面積 393.71平方メートル
平成10年 3月16日	筑紫野消防署南出張所新築工事完成(1階 車庫、事務室、食堂、待機室、2階 仮眠室、トレーニングルーム、会議室) 敷地面積 1,456.55平方メートル、延面積 617.95平方メートル
平成14年 2月12日	太宰府消防署東出張所建設用地として1,235.2平方メートル購入
平成16年 1月30日	太宰府消防署東出張所新築工事完成(1階 車庫、事務室、2階 食堂、待機室、仮眠室、トレーニングルーム、会議室)延面積 634.45平方メートル
平成17年 1月30日	太宰府消防署裏車庫を改修 トレーニングルーム・喫煙室を設置
平成20年 6月26日	消防本部第三庁舎改修(1階 女性更衣室・トレーニングルーム) 延面積 95.73平方メートル
平成20年12月26日	消防本部来客者駐車場及び消防訓練用地として350.23平方メートル購入
平成22年12月 3日	太宰府消防署新築工事完成 (1階 車庫、事務室、会議室、2階 食堂、待機室、仮眠室、トレーニングルーム、指令課、指令センター、R階 訓練施設) 建築面積 844.85平方メートル 延面積 1,719.68平方メートル
平成24年 4月 6日	消防本部及び筑紫野消防署庁舎建設用地として422.84平方メートル購入
平成25年 8月26日	消防本部及び筑紫野消防署解体に伴い、仮設庁舎運用開始
平成26年12月 1日	消防本部及び筑紫野消防署新庁舎完成 仮運用開始(1階 車庫、資機材庫、待機室、トレーニングルーム、2階 事務室、研修室、防災展示コーナー、仮眠室、団長室、3階 事務室、議場、災害対策室、作戦会議室、4階 屋内訓練場) 建築面積 1,480.80平方メートル 延面積 4,819.74平方メートル
平成27年 6月30日	筑紫野消防署訓練塔(A、B、C塔)及び車庫棟完成(A塔・地上5階建て、訓練用連結送水管設備、マンホール災害訓練場、訓練用救助袋、訓練用避難梯子、訓練用緩降機付、B塔・地上2階建て、煙道、潜水訓練用プール、消火訓練場付、C塔・地上2階建て、転落事故救出訓練用傾斜壁、救助ネット室付、

車庫棟・地上1階建て、雨水・井水浄化再処理装置付)

建築面積	A塔 45.14平方メートル	延床面積	A塔198.70平方メートル
	B塔106.44平方メートル		B塔204.01平方メートル
	C塔 36.89平方メートル		C塔 70.56平方メートル
	車庫棟 97.03平方メートル		車庫棟 97.03平方メートル

平成27年 7月 1日	消防本部及び筑紫野消防署新庁舎 本運用開始
平成31年 1月17日	筑紫野消防署南出張所屋根・外壁を改修
平成31年 3月20日	高機能消防指令センター中間更新業務完了
令和 5年11月 1日	福岡都市圏消防共同指令センター参入

機械及び車両

昭和42年 2月 1日	業務開始 筑紫野町消防団等から普通消防ポンプ自動車2台借用、乗用車1台購入
昭和42年 3月 8日	普通ポンプ自動車(日産)購入
昭和42年12月26日	武石外科病院から救急車(日産)の寄贈を受ける。
昭和43年 5月12日	日本損害保険協会から普通ポンプ自動車(日産)の寄贈を受ける。
昭和43年 8月20日	指令車(日産)購入
昭和45年 9月29日	小型動力消防ポンプ積載自動車(いすゞ)購入 太宰府分署に配置
昭和45年11月24日	水槽付ポンプ自動車(いすゞ)購入 太宰府分署に配置
昭和45年12月26日	化学消防ポンプ自動車(いすゞ)購入 本署に配置
昭和46年 1月 6日	日本生命保険協会より救急車(日産セドリックライトバン改造型)の寄贈を受け、本署に配置
昭和46年 4月 1日	筑紫地区危険物安全協会から普通乗用車(三菱)の寄贈を受け、消防長車として本部に配置
昭和46年 5月 1日	テレガイド(専用線5回線)購入
昭和46年 5月 1日	日本消防協会より広報車(三菱)の寄贈を受け、本部に配置
昭和46年 9月 1日	テレガイド5回線増設(合計10回線)
昭和46年11月 4日	消防救急一斉指令装置(NEC.FD-201型)設置
昭和47年 2月 1日	超短波無線電話陸上移動局購入
昭和47年 4月28日	エンジンカッター購入
昭和47年 5月14日	つくしライオンズクラブから救助工作車(日産)の寄贈を受け、本署に配置
昭和48年 9月 7日	屈折はしご付消防ポンプ自動車(三菱16m級)購入 本署に配置
昭和49年 3月 1日	非常電源装置(300VA DC24V-AC100V8H)設置
昭和49年 4月20日	松原 稔氏より指令車(スバル)の寄贈を受け、本署に配置
昭和49年 4月27日	救命ボート(一式)、潜水器具(2組)購入 本署救助隊に配置
昭和49年 5月 1日	自動通報装置(RTS-102 [R] (筑紫野市湯町地区旅館19ヶ所)設置
昭和50年 3月 1日	普通乗用車(トヨタ)購入 消防長車として本部に配置

昭和50年 5月 8日	救急車(トヨタ2B型)購入 太宰府分署に配置
昭和50年12月 9日	福岡県共済農業協同組合連合会から救急車(トヨタ2B型)の寄贈を受け、本署に配置
昭和51年 7月16日	自動二輪車(ホンダ)3台購入 本署に配置
昭和51年 9月 9日	普通消防ポンプ自動車(三菱)購入 本署に配置
昭和52年 3月17日	救急用無線電話装置設置(基地局1基、移動局2基)
昭和52年 6月30日	気象観測装置機器(日本エレクトリックインスルメント社FWS-7600型)設置
昭和52年 6月30日	草刈作業車(三菱)購入 本署に配置
昭和52年 8月 2日	指令車(日産)購入 本署に配置
昭和52年12月13日	救助用エアソー購入 救助工作車に積載
昭和52年12月20日	福岡県共済農業協同組合連合会から救急車(トヨタ2B型)の寄贈を受け、本署に配置
昭和52年12月21日	(株)宇佐美から査察車(トヨタ)の寄贈を受け、本部に配置
昭和53年 2月28日	救助工作車(三菱)購入 筑紫野消防署に配置
昭和53年 3月17日	日本防火協会から防火号(日産)の寄贈を受け、本部に配置
昭和53年12月26日	救急用無線複信電話装置移動局1基購入
昭和54年 8月29日	草刈連絡車(トヨタ)購入 本部に配置
昭和54年10月19日	日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車(日産)の寄贈を受け、筑紫野消防署に配置
昭和54年12月26日	水槽付消防ポンプ自動車(三菱)購入 太宰府消防署に配置
昭和55年 5月28日	指令車(トヨタ)購入 筑紫野消防署に配置
昭和55年12月24日	宗教法人善隣会から乗用車(日産)の寄贈を受け、消防長車として本部に配置
昭和57年 3月27日	消防救急指令装置をB型に更新 緊急情報現示装置設置、消防救急無線統制台、超短波無線電話装置購入 超短波無線電話第4装置基地局設置
昭和57年12月15日	日本損害保険協会より救急車(日産シビリアン3B型)の寄贈を受け、筑紫野消防署に配置
昭和58年 6月28日	緊急連絡車(トヨタ)購入 筑紫野消防署に配置
昭和58年 8月19日	日本消防協会から救急車(トヨタ2B型)の寄贈を受け、太宰府消防署に配置
昭和58年11月16日	水槽付消防ポンプ自動車(三菱)購入 筑紫野消防署に配置
昭和59年 5月30日	緊急連絡車(日産)購入 太宰府消防署に配置
昭和59年 9月17日	マイクロバス(三菱P-BH214F型)購入 本部に配置
昭和60年 3月14日	気象観測装置(日本エレクトリックインスルメント社製FWS-7900ED)購入 通信指令室に設置
昭和60年 3月25日	本部(筑紫野消防署)訓練場に水銀照明設備を設置
昭和61年 2月28日	救急車(日産キャラバン2B型)購入 筑紫野消防署に配置
昭和61年 2月28日	査察車(日産)購入 本部に配置
昭和61年 3月17日	救助工作車(三菱)購入 筑紫野消防署に配置

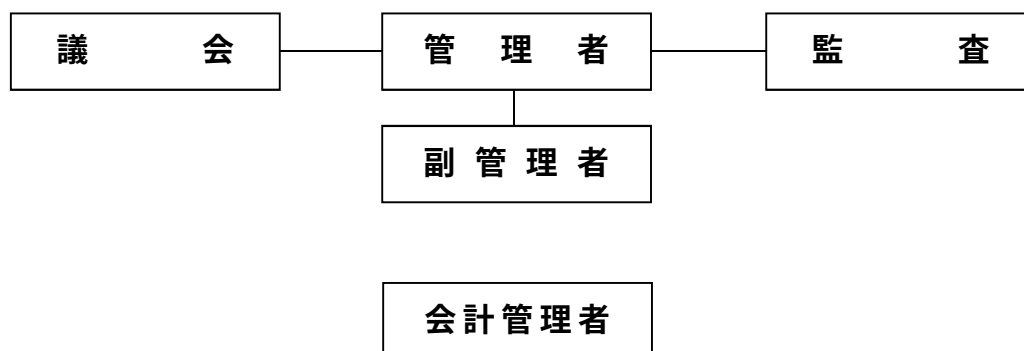
昭和62年10月29日	日本自動車工業会から救急車(日産ホーミー2B型)の寄贈を受け、太宰府消防署に配置
昭和62年12月25日	普通消防ポンプ自動車(三菱)購入 太宰府消防署に配置
昭和63年 6月 8日	テレガイド増設(合計20回線)
昭和63年10月25日	指令車(日産)購入 太宰府消防署に配置
平成元年10月 6日	筑紫野消防署のはしご付消防ポンプ自動車(三菱38m級)更新 (25号車)
平成 2年 2月24日	予防課の防火号(トヨタ)更新
平成 2年 6月15日	警防課の資材搬送車(三菱)更新
平成 3年 3月29日	筑紫野消防署の救急車(武石太兵衛氏寄贈、日産ホーミー2B型)更新 (救急1)
平成 3年 8月17日	太宰府消防署の水槽付消防ポンプ自動車(日本損害保険協会寄贈、日野)更新 (33号車)
平成 3年 8月30日	太宰府消防署の救急車(日本消防協会寄贈、日産キャラバン2B型)更新(救急5)
平成 4年 2月 3日	太宰府消防署の消防ポンプ自動車(日野)更新 (32号車)
平成 4年 5月25日	救急用無線電話機(10W1基)購入
平成 4年 6月24日	消防用超短波無線機(10W1基)購入
平成 4年 6月25日	筑紫野消防署の指令車(いすゞ)更新 (21号車)
平成 4年 6月30日	消防長車(日産)更新
平成 5年 5月20日	総務課事務連絡車(日産)更新
平成 5年 6月15日	筑紫野消防署の緊急連絡車(日産)更新
平成 6年 7月 5日	筑紫野消防署査察車(28号車)、太宰府消防署調査車購入(37号車、38号車)
平成 6年12月21日	筑紫野消防署の水槽付消防ポンプ自動車(Ⅱ型)(日野)更新 (23号車)
平成 7年 3月31日	太宰府消防署の救急車(福岡県共済農業協同組合連合会寄贈、日産キャラバン2B型)更新 (救急6)
平成 7年 6月30日	予防課の査察車(日産)更新 (12号車)
平成 7年10月25日	総務課のマイクロバス(三菱)更新 (16号車)
平成 8年11月29日	筑紫野消防署の救急車(筑紫ガス株式会社寄贈、日産キャラバン2B型)更新 (救急1)
平成 9年 1月21日	筑紫野消防署に小型動力ポンプ付水槽車(Ⅱ型)(日野)配置 (27号車)
平成 9年 3月27日	消防緊急通信指令システム(NECⅡ型)更新
平成10年 3月 7日	筑紫野消防署南出張所に調査車(ダイハツ)配置 (58号車)
平成10年 3月10日	消防緊急通信指令システム端末機器購入 筑紫野消防署南出張所に配置
平成10年 3月20日	筑紫野消防署南出張所に水槽付消防ポンプ自動車(Ⅱ型)(日野)配置(53号車)
平成11年 2月26日	筑紫野消防署に高規格救急車(日本自動車工業会寄贈、いすゞスーパーメディックス)配置 (救急1)
平成11年12月28日	太宰府消防署の指令車(トヨタ)更新 (31号車)
平成12年 3月 8日	太宰府消防署に高規格救急車(日産パラメディック)配置 (救急5)
平成13年 3月21日	筑紫野消防署の救助工作車(Ⅱ型)(日野)更新 (24号車)

平成13年11月30日	予防課の人員搬送車(日産)更新
平成13年12月17日	筑紫野消防署の消防ポンプ自動車(Ⅱ型)(日野)更新 (22号車)
平成15年 2月 1日	太宰府消防署に高規格救急車 (トヨタハイメディック)配置 (救急6)
平成16年 2月20日	太宰府消防署東出張所に調査車(スバル)配置 (68号車)
平成16年 2月20日	太宰府消防署東出張所に災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車配置 (63号車)
平成16年 2月20日	太宰府消防署東出張所に高規格救急車(トヨタハイメディック)配置替(救急6)
平成16年 7月17日	警防課の調査車(スバル)更新 (13号車)
平成17年 2月 4日	筑紫野消防署南出張所に高規格救急車(日産パラメディック)配置 (救急2)
平成17年 2月18日	太宰府消防署の水槽付消防ポンプ自動車(日野)更新 (33号車)
平成18年 2月24日	筑紫野消防署の高規格救急車(日産パラメディック)更新 (救急1)
平成18年 6月29日	警防課の調査車(トヨタ)更新 (13号車)
平成18年 6月29日	総務課に事務連絡車(スバル)配置替 (15号車)
平成18年12月18日	筑紫野消防署に現場指揮車(日産)配置 (21号車)
平成18年12月18日	筑紫野消防署に緊急連絡車(いすゞ)配置替 (20号車)
平成18年12月20日	消防無線防災相互波増波(救急隊5局、携帯無線1局)
平成19年 6月20日	筑紫野消防署の査察車(スバル)更新 (28号車)
平成19年12月 8日	太宰府消防署の高規格救急車(トヨタハイエース)更新 (救急5)
平成19年12月 8日	太宰府消防署に高規格救急車(日産パラメディック)配置替 (救急7)
平成19年12月17日	消防無線防災相互波増波(支援隊5局)
平成20年 2月14日	太宰府消防署の消防ポンプ自動車(三菱)更新 (32号車)
平成20年11月25日	筑紫野消防署のはしご付消防自動車(日野35m級)更新 (25号車)
平成21年 9月30日	太宰府消防署の調査車廃車(39号車)
平成21年12月10日	筑紫野消防署の水槽付消防ポンプ自動車(日野)更新 (23号車)
平成22年 3月26日	太宰府消防署東出張所の高規格救急車(トヨタハイエース)更新 (救急6)
平成22年12月24日	太宰府消防署に支援車Ⅰ型(総務省消防庁貸与)配置(11号車)
平成23年 1月21日	太宰府消防署に調査車(三菱)配置 (39号車)
平成23年 3月 6日	太宰府消防署に高機能消防指令システムⅡ型更新
平成23年 9月30日	予防課の査察車(日産)更新 (12号車)
平成24年 1月23日	筑紫野消防署の高規格救急車(トヨタハイエース)更新 (救急1)
平成24年10月 4日	消防長車(日産)を廃車し、人員搬送車(トヨタ)購入 (17号車)
平成24年11月17日	太宰府消防署の高規格救急車(トヨタハイエース)更新 (救急5)
平成25年 3月22日	筑紫野消防署南出張所の水槽付消防ポンプ自動車(日野)更新 (53号車)
平成25年 4月17日	筑紫野消防署に水槽付消防ポンプ自動車 (日野)配置替 (26号車)
平成25年11月26日	太宰府消防署に現場指揮車(日産)配置 (31号車)
平成26年 6月27日	筑紫野消防署の調査車(ダイハツ)更新 (29号車)
平成26年11月17日	筑紫野消防署南出張所の救急車(筑紫ガス株式会社寄贈、トヨタハイエース)更新 (救急2)

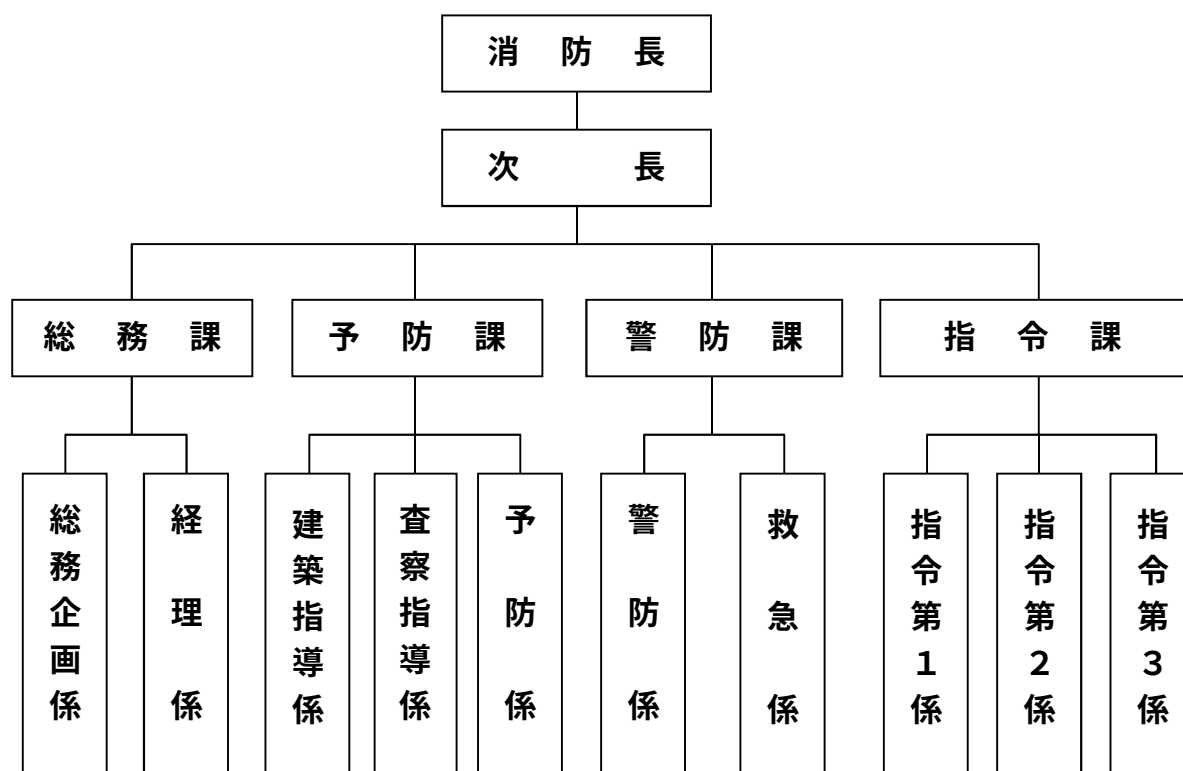
平成26年11月17日	筑紫野消防署に高規格救急車(トヨタハイエース)配置替 (救急3)
平成26年12月 1日	筑紫野消防署に支援車Ⅰ型(総務省消防庁貸与)配置替 (11号車)
平成27年 7月 1日	消防救急デジタル無線運用開始
平成28年 2月18日	筑紫野消防署の救助工作車(Ⅱ型)(日野)更新 (24号車)
平成28年 6月21日	太宰府消防署の事務連絡車(スズキ)更新(38号車)
平成28年11月28日	筑紫野消防署の消防ポンプ自動車(CD-Ⅰ型)(日野)更新(22号車)
平成28年11月30日	太宰府消防署東出張所の高規格救急車(トヨタハイエース)更新 (救急6)
平成28年11月30日	太宰府消防署に高規格救急車(トヨタハイエース)配置替(救急7)
平成30年 3月14日	筑紫野消防署の高規格救急車(トヨタハイエース)更新 (救急1)
平成30年 3月14日	筑紫野消防署に高規格救急車(トヨタハイエース)配置替 (救急3)
平成30年 3月19日	資材搬送車(三菱)を廃車し、多機能型緊急資機材搬送車(日野)購入 (14号車)
平成30年12月21日	太宰府消防署東出張所の水槽付消防ポンプ自動車(日野)更新 (63号車)
平成30年12月21日	太宰府消防署に水槽付消防ポンプ自動車(日野)配置替 (36号車)
平成31年 2月 4日	太宰府消防署の高規格救急車(トヨタハイエース)更新 (救急5)
平成31年 2月 4日	太宰府消防署に高規格救急車(トヨタハイエース)配置替 (救急7)
令和元年 9月20日	筑紫野消防署南出張所の調査車(ダイハツ)を廃車し、緊急連絡車(ダイハツ) 購入 (58号車)
令和 2年 2月17日	太宰府消防署の水槽付消防ポンプ自動車(日野)を災害対応特殊水槽付消防ポン プ工作車に更新 (33号車)
令和 2年 2月18日	筑紫野消防署に水槽付消防ポンプ自動車(日野)配置替 (26号車)
令和 2年 3月27日	太宰府消防署の事務連絡車(スズキ)を緊急連絡車に更新 (38号車)
令和 2年11月28日	筑紫野消防署に高規格救急車(トヨタハイエース)配置 (救急3)
令和 2年11月28日	筑紫野消防署に高規格救急車(トヨタハイエース)配置替 (救急8)
令和 3年 3月16日	筑紫野消防署の事務連絡車(ダイハツ)を緊急連絡車に更新 (29号車)
令和 3年11月17日	総務課のマイクロバス(三菱)を廃車し、緊急人員資機材輸送車購入 (16号車)
令和 5年11月16日	筑紫野消防署南出張所の高規格救急車(トヨタハイエース)更新 (救急2)
令和 5年11月16日	筑紫野消防署に高規格救急車(トヨタハイエース)配置替 (救急8)
令和 6年10月22日	太宰府消防署東出張所の高規格救急車(トヨタハイエース)更新 (救急6)
令和 6年10月22日	太宰府消防署に高規格救急車(トヨタハイエース)配置替 (救急7)

3. 筑紫野太宰府消防組合消防機構

消 防 組 合

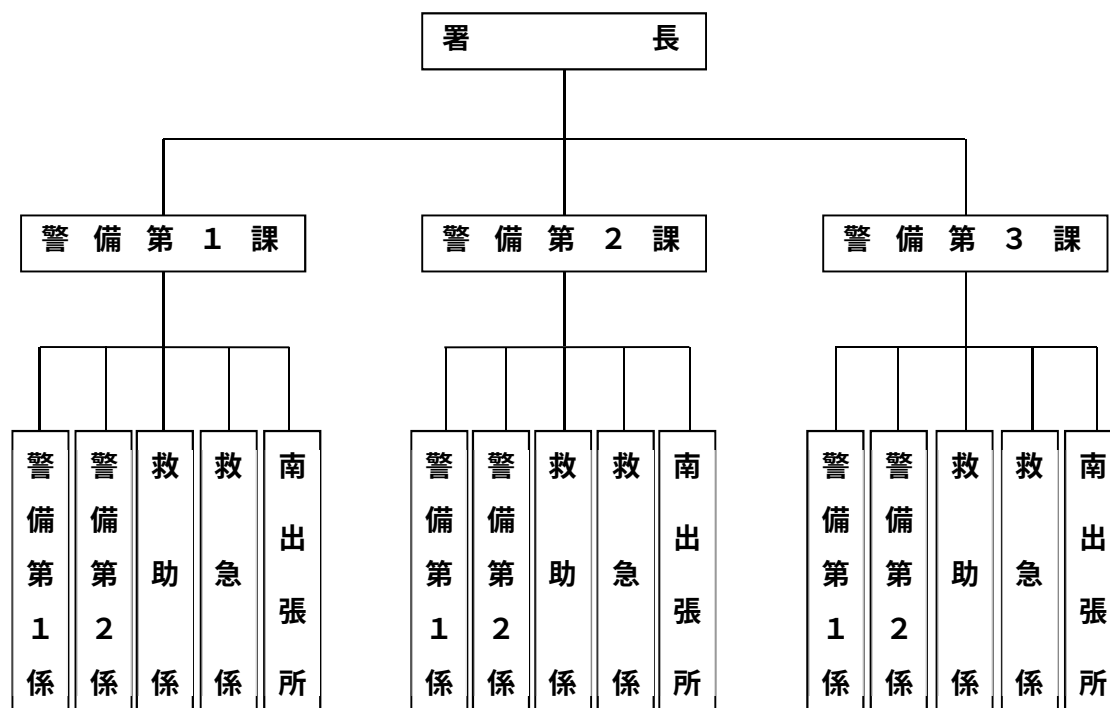


消 防 本 部

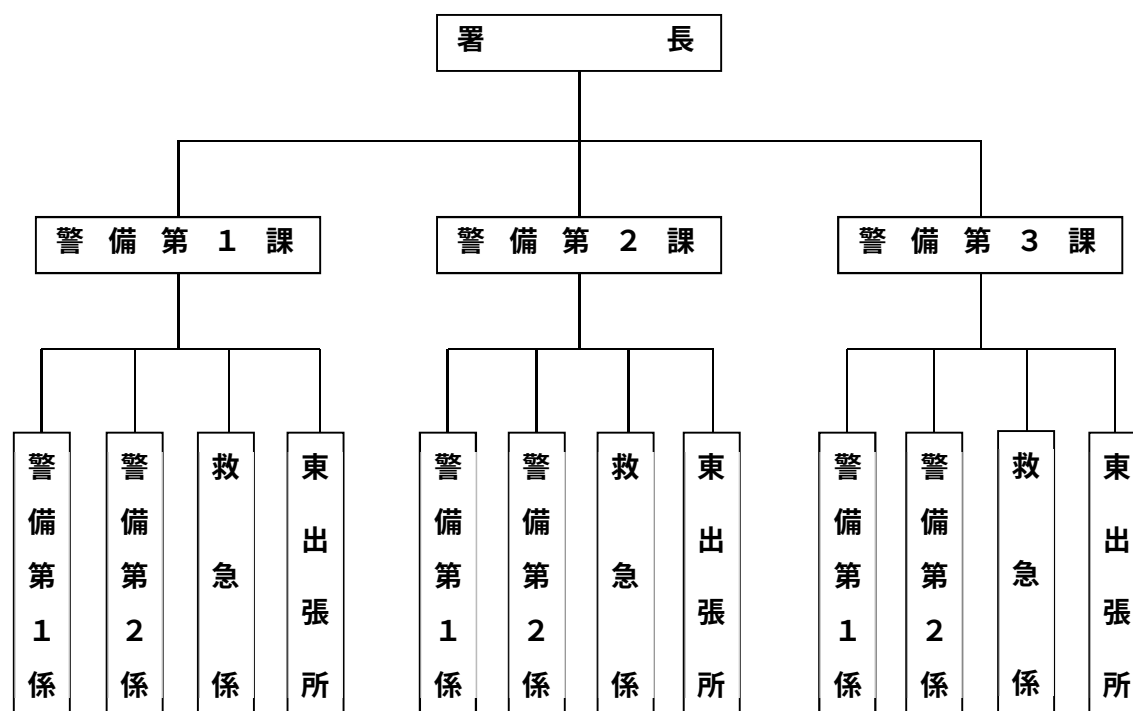


消 防 署

筑 紫 野 消 防 署

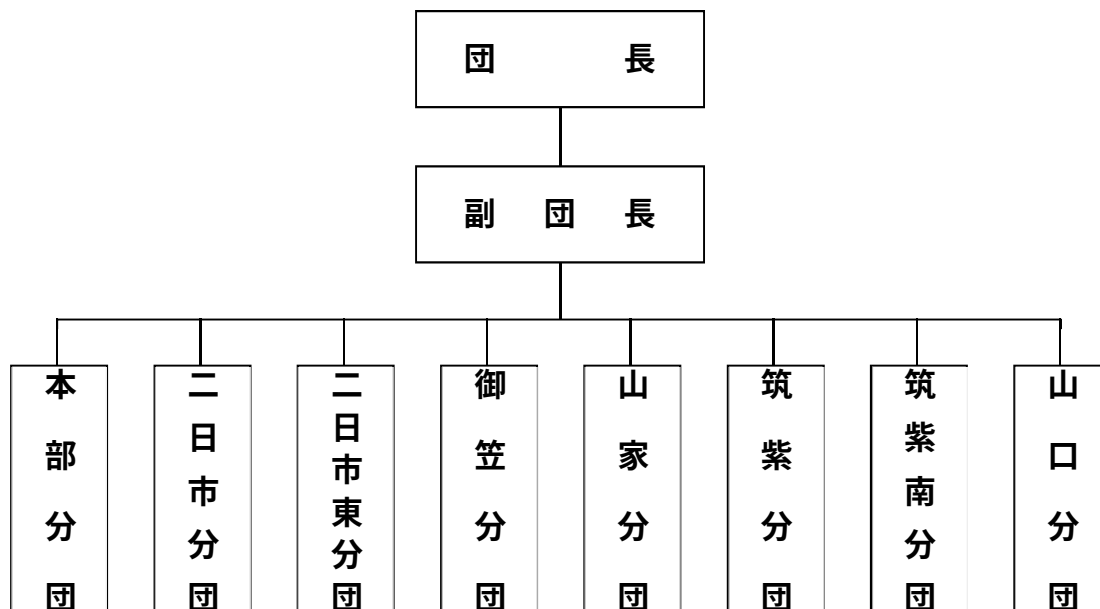


太 宰 府 消 防 署

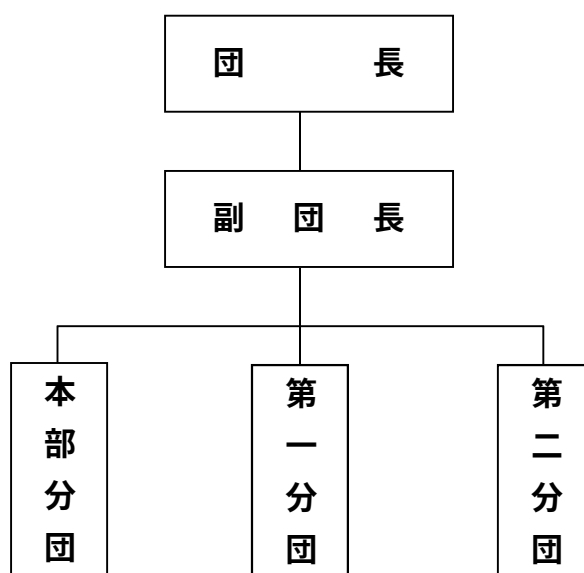


消 防 団

筑 紫 野 市 消 防 団



太 宰 府 市 消 防 団



4. 消防本部及び署所の所在地



▲消防本部・筑紫野消防署庁舎



▲筑紫野消防署南出張所庁舎



▲太宰府消防署庁舎



▲太宰府消防署東出張所庁舎

名 称	所 在 地	管 轄 区 域
筑紫野太宰府消防組合 消 防 本 部	〒818-0084 筑紫野市針摺西一丁目1番1号	筑 紫 野 市 太 宰 府 市
筑 紫 野 消 防 署	〒818-0084 筑紫野市針摺西一丁目1番1号	筑 紫 野 市
筑紫野消防署南出張所	〒818-0024 筑紫野市原田四丁目16番地1	筑 紫 野 市
太 宰 府 消 防 署	〒818-0101 太宰府市観世音寺二丁目19番19号	太 宰 府 市
太宰府消防署東出張所	〒818-0125 太宰府市五条一丁目18番12号	太 宰 府 市

5. 消防本部・署事務分掌

総務課	総務企画係	(1) 本部、課の庶務に関する事。 (2) 消防事務事業の企画及び総合調整に関する事。 (3) 職員の任免、服務、分限、懲戒、賞罰、その他身分に関する事。 (4) 職員の人事に関する事。 (5) 職員の教養、研修に関する事。 (6) 職員の公務災害補償、共済組合及び賞じゅつに関する事。 (7) 職員の退職年金、退職一時金及び退職手当に関する事。 (8) 職員等の表彰に関する事。 (9) 職員の福利厚生及び健康管理に関する事。 (10) 条例、規則、規程及び告示並びに公告式に関する事。 (11) 例規集の編集に関する事。 (12) 儀式及び渉外に関する事。 (13) 公印の管理に関する事。 (14) 職員の給与、勤務時間その他勤務条件に関する事。 (15) 所得税の源泉徴収及び県市町村民税の特別徴収に関する事。 (16) 文書の受付、配布及び管理に関する事。 (17) 消防組合事務に関する事。 (18) 消防組合議会に関する事。 (19) 公平委員会に関する事。 (20) 職員の児童手当に関する事。 (21) その他、他の課の主管に属しない事。
	経理係	(1) 予算、決算その他財政一般に関する事。 (2) 消防組合債及び国県補助金に関する事。 (3) 契約に関する事。 (4) 職員の被服に関する事。 (5) 支出負担行為の確認に関する事。 (6) 庁舎の維持及び管理に関する事。 (7) 財産の取得、管理及び処分に関する事。 (8) 備品、消耗品に関する事。 (9) 現金(現金に代えて納付される証券及び基金に属する現金を含む。)の出納及び保管に関する事。 (10) 会計に関する事。 (11) 消防組合監査に関する事。 (12) その他経理に関する事。

予 防 課	予 防 係	(1) 課の庶務に関すること。 (2) 火災予防運動等防火思想の普及宣伝に関すること。 (3) 防火委員会及び運営指導協議会に関すること。 (4) 防災協会の育成に関すること。 (5) 防火管理に係る講習に関すること。 (6) 危険物の規制に関すること。 (7) 危険物施設等の査察計画及び実施に関すること。 (8) 危険物取扱者に対する免状返納に関すること。 (9) 少量危険物、指定可燃物の貯蔵及び取扱いに関すること。 (10) 液化石油ガス、高圧ガスの保安指導に関すること。 (11) その他危険物等における火災予防措置に関すること。
	査 察 指 導 係	(1) 防火対象物の査察計画に関すること。 (2) 防火対象物の違反処理に関すること。 (3) 危険物施設の違反処理に関すること。 (4) 違反対象物の公表制度に関すること。 (5) 予防技術資格者に関すること。 (6) その他査察における火災予防措置に関すること。
	建 築 指 導 係	(1) 住宅の防火指導計画に関すること。 (2) 建築同意等に関すること。 (3) 消防用設備等の指導に関すること。 (4) 消防設備士に対する免状返納に関すること。 (5) 防火基準適合表示制度に関すること。 (6) 旅館、ホテルの意見書の交付に関すること。 (7) 防災処理の指導に関すること。 (8) 即時通報の登録に関すること。 (9) 防火・防災管理（講習を除く。）に関すること。 (10) 自衛消防業務講習に関すること。 (11) その他建築物における火災予防措置に関すること。

警 防 課	警 防 係	(1) 課の庶務に関すること。 (2) 職員の監察に関すること。 (3) 消防力の整備に関すること。 (4) 警備隊の配置及び運用に関すること。 (5) 消防機械装備器具の整備及び管理に関すること。 (6) 機関員等の養成及び指導に関すること。 (7) 火災、救助及びその他の災害の警備計画の策定及び実施に関すること。 (8) 消防演習及びその他の各種訓練、研修に関すること。 (9) 火災の原因調査及び損害調査に関すること。 (10) 火災、救助及びその他の災害統計及び消防情報に関すること。 (11) 消防相互応援に関すること。 (12) 開発行為に係わる協議に関すること。 (13) その他警防に関すること。
	救 急 係	(1) 救急隊及び配置に関すること。 (2) 救急資器材の整備及び管理に関すること。 (3) 救急救命士の各種資格認定及び再教育等に関すること。 (4) 事後検証会議に関すること。 (5) 応急手当等の普及啓発に関すること。 (6) 患者等搬送事業者に対する指導及び認定に関すること。 (7) 救急病院等医療関係機関との連絡調整に関すること。 (8) 救急の統計に関すること。 (9) 消防車両等の法定点検に関すること。 (10) その他救急に関すること。
指 令 課		(1) 課の庶務に関すること。 (2) 課の企画に関すること。 (3) 消防通信及び指令業務に関すること。 (4) 無線に関すること。 (5) 福岡県防災行政無線に関すること。 (6) 消防年報に関すること。 (7) 救急医療に関すること。 (8) その他通信に関すること。

消 防 署	警 備 第 1 係	(1) 予防査察に関すること。 (2) 防火思想の普及に関すること。 (3) 建築同意に関すること。 (4) 催物、開催その他各種届出の処理に関すること。 (5) 防火相談に関すること。 (6) その他予防業務に関すること。
	警 備 第 2 係	(1) 消防隊の運用に関すること。 (2) 消防警備計画に関すること。 (3) 水火災その他の災害の警戒防ぎよに関すること。 (4) 地理水利調査に関すること。 (5) 消防機械及び装備に関すること。 (6) 催物等にかかわる警戒に関すること。 (7) 被災証明に関すること。 (8) 災害の調査及び報告に関すること。 (9) 消防隊の通行、その他消防活動に支障をおよぼすおそれのある各種届出の処理に関すること。 (10) その他警備業務に関すること。
	救 助 係	(1) 救助業務計画の樹立並びに実施に関すること。 (2) 救助隊の運用に関すること。 (3) 救助技術の研究並びに指導に関すること。 (4) 救助資機材の整備に関すること。 (5) 高層建築物の調査に関すること。 (6) 救助技術指導会に関すること。
	救 急 係	(1) 署の庶務に関すること。 (2) 文書収発及び整理保存に関すること。 (3) 公印の管理に関すること。 (4) 職員の勤務及び教養に関すること。 (5) 車両等の燃料管理に関すること。 (6) 庁舎取り締まりに関すること。 (7) 救急業務計画の樹立並びに実施に関すること。 (8) 救急隊の運用に関すること。 (9) 救急技術の研究並びに指導に関すること。 (10) 救急資器材の整備に関すること。
	出 張 所	(1) 前各号に掲げる事務分掌の一部を分掌する。

6. 筑紫野太宰府消防組合消防機関配置図

